

令和7年度 第1回 近江八幡市公共下水道事業審議会 会議記録 (別紙)

開催日時 令和7年8月19日(火) 15:25~16:25
開催場所 近江八幡市水道事業所 3階AB会議室
出席者 ◎西谷会長、○谷上副会長、山下委員、北川委員、
小椋委員、井上委員、中田委員、田中委員、松若委員
欠席者 なし
事務局 【水道事業所】中西所長
【上下水道施設課】苗村課長
(下水道G)村田課長補佐
【上下水道総務課】大野課長
(経営G)友岡課長補佐、日岡主査、中村主事
(料金・総務G)井狩課長補佐、藤主事

< 内 容 >

会長	<p>1. 開会 水道事業所長挨拶</p> <p>2. 会長挨拶 経営戦略の改定ということで、皆さんにご議論いただいたうえで、将来の下水道をどうするかということを経営戦略として確定したうえで、市議会に提出し、議論していただくことになる。本日は、課題・現状・将来見込みがどうなっているか認識していきたい。</p>
事務局	<p>3. 令和7年度 委員紹介・審議会運営について 委員及び事務局が各自自己紹介 審議会運営について事務局より説明</p> <p>4. 諮問事項 近江八幡市下水道事業経営戦略の改定について 近江八幡市公共下水道事業審議会条例第2条に基づき、近江八幡市下水道事業経営戦略の改定について意見を求める。</p> <p>5. 議事 議事について事務局より説明をいただきたい。</p>

事務局	<p>下水道事業経営戦略の改定について (令和6年度決算概要・経営状況等について) 【資料1】に基づき説明。</p>
会長	<p>経営戦略を来年の2月頃までに作成する。その手始めとして、現在 の下水道事業における現状及び課題の認識をして、次回、それに対す るご提案を事務局よりいただくことになる。</p>
会長	<p>近江八幡市の現状としては、料金が安く、赤字が経常化している。 赤字部分は税金で賄っている。資金については、3.4億円であり、1 年間の費用を賄えない状況である。極端に低いと言って差し支えない かと思う。現状、自転車操業のようにも関わらず、下水道の歴史は浅く、更新の費用が出ていない。10年後には更新の費用 や減価償却もかかるようになり、本格的な荒波が来るが、その前の段 階で運営が行き詰まっている状況である。</p> <p>資料の14ページでは、資本的収支とって工事に係る収支が記載 されているが、支出については、企業債償還金がほとんどで、建設改 良費があまりない。つまり、管がまだ新しく、建設改良するピークが 来ていない。10年後には建設改良費が増大することが予想される。 現在は、これまでの管を作るための借金を急いで返しているところだ である。しかし、市税を一部借りながら返しているところである。</p> <p>資料の13ページに、流域下水道管理運営費3.1億円とある。近江 八幡市の下水道は流域下水道という大きな管に集め、草津市のほうに 流している。これは値上げの話はあるか。</p>
事務局	<p>値上げの話はいただいている。相当な値上げだと認識している。</p>
会長	<p>経営戦略を作成するときには、県に払う流域下水道に係る費用が値 上げされるということも考慮したうえで作成しなければならないとい うことになる。</p>
委員	<p>資料5ページの地図について、沖島だけではなく、浄化槽の区域も 特環に入るのか。</p>

事務局	<p>処理区域図については、全体計画図になるので、供用開始区域外についても着色されている。特環については、沖島は特定環境保全単独公共下水道、それ以外は流域関連公共下水道となっている。</p>
委員	<p>要は、沖島以外については矢橋に行っているということか。</p>
事務局	<p>おっしゃるとおりである。沖島以外については、草津市にある県の矢橋帰帆島にてまとめて処理をしている。沖島については、沖島で単独で処理場を有しており、処理している。</p>
副会長	<p>10年ほど経過したら、下水道管路の更新時期になるとのことだが、もっと早い時期から下水道を供用開始しており、経営上参考になるような他市町の例はあるか。</p>
会長	<p>特定の市町の名前は挙げづらいが、近江八幡市は10年間余裕があるが、もっと古い時から下水道を整備している自治体は、ちょうど現在50年経過した頃である。初めに整備する際は、穴を掘り、管を埋めればよいが、今度は管を掘り出し、やり替えて埋めなおす必要があり、すごくお金がかかる。多くの自治体が赤字になっており、料金を値上げするしかない。他自治体を見ていると、20～50%程の値上げ、場合によっては100～200%の値上げをしている自治体もある。ただ、値上げをしようとする、議会の承認が必要になる。市民感情としては値上げしてほしくないということで、議会が承認しないうちに、下水管が破裂したり、事故が起きたりと、現場が取り残されるケースもある。</p> <p>最終的に、経営戦略だけでなく、料金についても審議会の中で意見をまとめて議会に提案するということになるかもしれない。しかし、それ以降のことについては議会の判断によるところなので、我々にはどうしようもない。そのような点で、紛糾されている自治体も珍しくない。</p> <p>下水道の更新の時には、管の中に膜を張り、中を新しくするというやり方が増えてきている。技術が発達してきており、将来的にはドローンが工事を担ってくれるかもしれない。50年先の将来は予想が難しいが、せめて10年間くらいは計画を立てないと手元の事業が進ま</p>

	<p>ないので、当たるか当たらないかは置いておいて、今の段階で将来の計画を立てようというのが経営戦略になる。</p>
委員	<p>水道に比べて、下水道の経営は大丈夫なのだろうかという感想を持った。使用料単価を150円に上げたら一般会計からの繰入金は減るのか。</p>
事務局	<p>繰入金自体がまったくなくなるわけではないが、赤字補填に充てている基準外繰入金については、一定は減らすことができる。</p>
会長	<p>雨水の処理については、誰が使ったということがわからないので、税金を費用に充てている。一方、下水については、使用者が明白なので、使用者から料金をいただくのが妥当であるという考え方である。国土交通省は、使用料単価や経費回収率等の条件を満たさないと工事の補助金を出さないというように、下水道に関して赤字が出ないように各自治体で努力をなささいという態度である。そのため、今のうちに事業体として健全な運営をしているということを国に対して示す必要がある。このような点も経営戦略に盛り込む必要があり、次回、そのような提案があると思われる。</p>
副会長	<p>6. 閉会</p> <p>閉会のあいさつということで、生成AIに関連する話をしようとしていたが、長丁場となり、お疲れのところだと思うので、次回にしようと思う。本日はこれで閉会とする。</p>